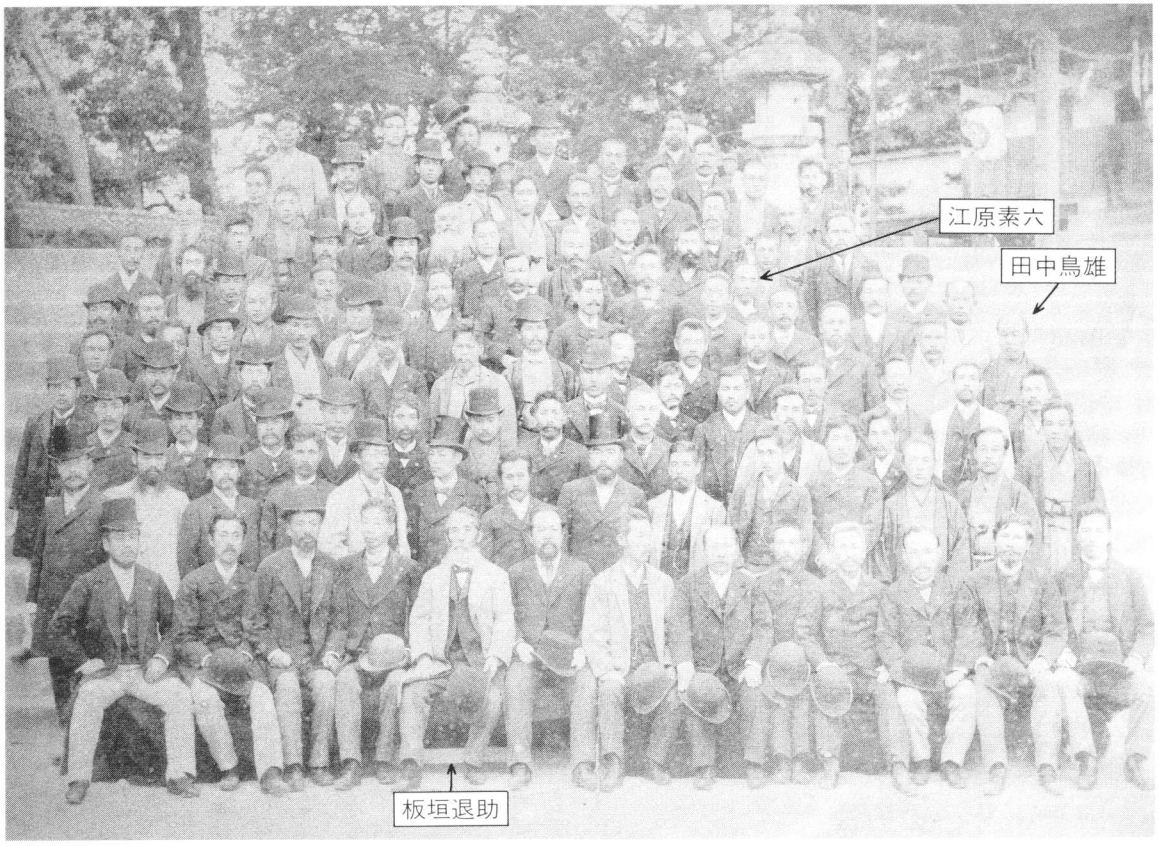
沼津市
明治史料館通信

1990.7.25（季刊 年4回発行）Vol.6 No.2 通巻第22号



自由党の党員たちか（函南町・田中和雄氏所蔵）

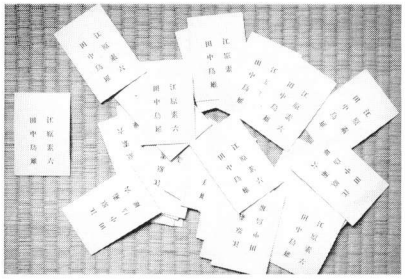
江原素六とその周辺〈13〉

第一回衆議院議員選挙

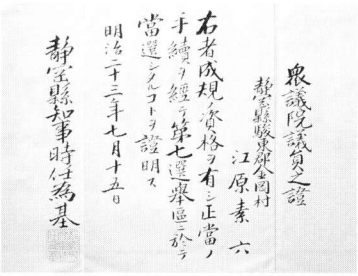
ちょうど百年前の明治二十三年（一八九〇）七月一日、第一回衆議院議員選挙が行われた。静岡県第七区（駿東郡と伊豆四郡）からは江原素六と依田佐二平が当選した。江原は大同派に属し、立憲自由党に加盟、以後自由党から静岡県では五回連続当選することになる。しかし第一回選挙の際は、彼は明治十五年（一八八二）に沼津中学校長を辞して以来、一介のキリスト教伝道師に過ぎず、牧畜・製茶輸出事業失敗の負債を抱えた状態であり、直接国税十五円以上を納めるという被選挙資格も、金岡村の豪農江藤浩蔵に土地を譲渡されてようやく得るという有様であった。また、政治上の主義主張の面でもしっかり固まっていない部分があったらしく、明治二十三年二月二十二日に松崎の懇親会で行った演説は、「自分が六郡倶楽部に加入せしは非政社体なるゆへなり大同派員となりしに非らずと陳じ自分は改進党に非らざれど改進主義を賛成すと述べ且つ今日は板垣伯の挙動を伺ひ居れり余ハ昔日より

伯と共にせんと欲せしこと故今日の伯にして昔日の伯なりせば余ハ将来も伯と共にせんと述べたり」（『静岡大務新聞』明治23・2・27）という内容であり、自由主義をとるのか改進主義をとるのかはっきりしないところがあった。この点について、改進派の新聞『静岡大務新聞』は明治二十三年六月十一日の記事の中で、選挙戦が改進派の候補和田伝太郎に対し江原は劣勢であるという点とともに、松崎での発言が自派をも混乱させてしまっていると、意地の悪い報道をしている。以下に掲げるのがその記事である。

●第七区撰挙者の形況　静岡以西の撰挙区内の形況ハ日々本紙上に登載するも以東に至ってハ未だ確実なる詳報に接せざれば特に通信委員に近状を報せんことを申し送りし処今其の確報を得たれば茲に掲けん抑も第七区とは読者諸君も既に了知せられし如く駿東、君沢、賀茂、田方、那賀の五郡にして駿東ハ駿河に属し他の四郡ハ皆な伊豆なり其の撰挙人員を挙れは駿東八百卅人伊豆四郡九百廿六人通計壱千七百五十六人にして此内より二人の候補者を撰出することなるに付世間にハ区々の評論あれども先つ目下の形況にてハ駿東郡の和田伝太郎那賀郡の依田佐二平の二氏コソ最とも衆望の帰する所なりされバ江川英武、田中鳥雄、仁田大八郎、山口餘一等の諸氏も固とより多（4頁第1段へ続く）



江原素六・田中鳥雄連名の選挙運動用名刺（田中和雄氏所蔵）



第一回衆議院議員選挙当選証書（江原素六文書）

シリーズ 沼津兵学校とその人材 ㉑

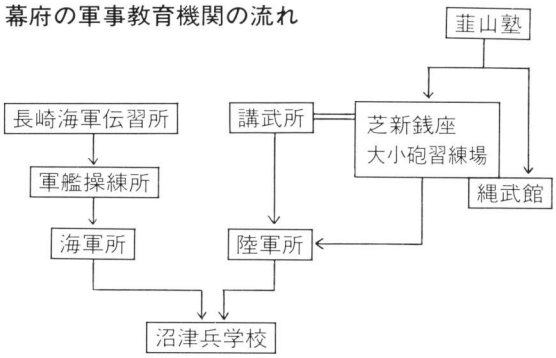
韮山と沼津の間

―坦庵から兵学校へ―

徳川幕府の軍制近代化過程における韮山代官江川坦庵と沼津兵学校の存在を考える時、「発祥地」としての韮山、「終焉地」としての沼津の歴史的位置を思わざるをえない。この点について米山梅吉は、『幕末西洋文化と沼津兵学校』（昭和九年刊）の中で、「天城山を源として韮山に沿ひ蛭小島を控へて流るる狩野川の水は、僅かに数里を出ずして沼津の海に注ぐのである。韮山は専ら兵術を以て前に、沼津は主として人文を以て後に、急転直下したる若干の年所を隔てて各日本の文明進歩に寄与するところ大なりし此両地が、かくも指呼の間に並び存すといふも亦た太だ奇にして、人をして駿豆山川秀霊の気がこの新様式の文武発育の淵叢に映発するものあるを懐はしめることである。」と郷土人の誇りを込めて記述した。

実際、上の図のように、江川坦庵の韮山塾と沼津兵学校とは系譜上もつながっていると考えることができるし、人的にも、幕府の陸海軍に多くの人材が輩出した江川の門弟たちと、沼津兵学校の人材たちとは、講武所や長崎海軍伝習所において師弟・同僚・同窓だったのである。以下、韮山代官所と沼津兵学校の人的つながりの個別具体例を紹介していくこととしよう。

幕府の軍事教育機関の流れ



万年千秋（慎太郎・精一・隠岐守）は、沼津兵学校三等教授になった人だが、幕末には江川坦庵には直接師事はしなかったものの、坦庵没後江川家が所管した芝新銭座の大小砲習練場で学頭並をつとめ、その後も講武所教授方や砲兵頭などを歴任した。万年以外にも沼津兵学校の砲兵関係の教授には講武所出身者が多く、江川家とは多少なりとも関係があったものと思われる。江原素六は講武所出身だが、戊辰戦争の際賊軍として官軍に追及された時、韮山の知人を頼って逃れるつもりであったというが、それも講武所時代の人脈によるものだったのかもしれない。

万年千秋
（万年文雄氏所蔵）

八田公道
（八田公雄氏所蔵）

八田公道（篤造）は、韮山代官所の手代で反射炉築造に尽力した八田兵助（運平・公経）の養子であり、坦庵に砲術を学び、後幕府に取り立てられ歩兵頭にまでなり、維新後静岡藩士として沼津に移住、沼津勤番組十五番頭頭取に任命された人物。沼津時代に彼が兵学校に関わったかどうかは不明だが、廃藩後も下香貫に住み、明治二十八年大阪で七十四歳で亡くなった。

志村貞鋹
（志村広雄氏所蔵）

志村　貞
（志村広雄氏所蔵）

平野雄三郎（勝礼）は、幕末に海軍奉行並支配組頭などをつとめた人物で、維新後沼津勤番組十七番頭世話役になった。彼は江川坦庵の女婿であった。

甲斐直次郎（信行）は鉄砲方附手代当分出役として江川の属僚となり砲術を学び、文久二年（一八六二）に没した人だが、彼の息子芳太郎は維新後旧幕臣として沼津に移住した。画家河鍋暁斎は直次郎の実弟であり、韮山や沼津に足跡を残している。

その他、長崎海軍伝習所に学んだ人物には、韮山代官所と沼津兵学校双方の関係者が多く、当然交友関係が生じたものと思われる。韮山の肥田浜五郎・望月大象・松岡磐吉・柴弘吉・長沢綱吉らと、沼津の赤松則良・伴鉄太郎・塚本明毅・矢田堀鴻らである。

明治元年から四年までの静岡藩・韮山県の時代は、隣接したそれぞれ別個の藩と県であり、特に韮山県は明治政府の直轄地として中央との結び付きが強かったが、かつての徳川家と江川家という主従関係が精神的にはどこまで払拭されていたかどうか想像をかきたてる点である。両藩県の人的交流の一例として静岡藩から韮山県への転勤がある。すなわち静岡藩の沢田学校所教授であった**浅田耕**は、明治四年（一八七一）四月、藩主徳川家達の命により韮山県大属試補に転じたのである。彼は足柄県時代まで奉職した。

廃藩後も当然韮山・沼津の人的交流は続き、沼津兵学校の出身者が韮山中学校の教員になったりもしている。兵学校第四期資業生**志村貞鋹**は、江川家に砲術を学び八王子千人隊の洋式調練を始めた千人隊之頭河野通聿（仲次郎）の甥であったが、そのような関係もあってか、廃藩後熊谷県参事をつとめていた元韮山代官所手代・韮山県少参事根本公直（慎蔵）の次女貞と結婚した。

この他にも、韮山と沼津、江川坦庵と沼津兵学校を結び付ける人脈は数多くあったと想像される。いずれにせよ、韮山と沼津とが幕末・維新期における幕府系軍事官僚・洋学者の人材集散地であったことが何とも興味深いのである。

（2頁第2段より）少の勢力ありと雖もイザ戦場といふ時ハ必らず四分五裂して其の志望を達する能はささるべし亦た駿東の和田氏の外に室伏董平、湯山寿介等の諸氏あるも是れ等有為の諸士は皆な己れ達せんと欲する時ハ先人を達せめんとの志ありて元より和田氏を推戴せんと謀り居れば別段陣を対し戦ハんと欲する者ハ無し只陰に陽に熱心競争を計るハ江原素六氏なり氏は毎に幕下の士永井嘉一郎、長倉計吉、川口与五郎、森藤七郎、大橋兼久、遠井忠三郎、吉川鎌三郎諸氏一騎当千の面々を引率して到処運動奔走するも徒労に属するが如し既に氏ハ大同主義を抱持し同派の演説懇親会等にハ毎に尽力して怠らず沼津六郡倶楽部の壮士輩とハ其の関係甚た浅からさりしに関はらず先頃松崎に開きたる有志大懇親会席上演説中に予は改進主義なりと公言せし為め聞く者ハ其言行の曖昧なるを見て或は筒井順慶には非らさる乎と自党も他党も大に怪訝に堪へす氏の為めに惜むもの少なからずと云ふ嗚呼……

……免

お知らせ欄

◎企画展「明治の戦争と民衆―沼津市域にみる日清・日露戦争―」がはじまります

開期：8月1日(水)～9月30日(日)
会場：4階展示室
趣旨：沼津という一地域から日清・日露戦争を見ることによりアジア侵略を始めた明治という時代、あるいは戦争が庶民に何をもたらしたかについて考えます。
内容：出征兵士の写真、軍事郵便、従軍日記、軍服、勲章、新聞号外等々、地域に残された各種資料を中心に展示・紹介します。

◎歴史講演会の聴講者を募集します

企画展に関連した講演会を2日にわたり開催します。場所は当館講座室、時間は午後2時から4時までです。聴講希望者は当館までお電話で申し込み下さい。

8月5日(日)　大濱徹也氏（筑波大学教授）「民衆にとっての戦争」
8月12日(日)　田村貞雄氏（静岡大学教授）「日清・日露戦争と静岡県」

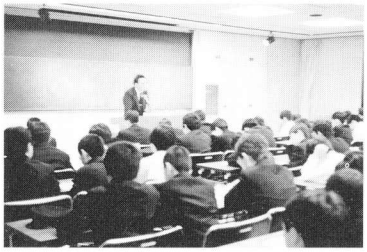
◎古文書解読入門講座の受講生を募集します

古文書にはじめて接する初心者を対象とした入門講座です。受講申し込みは当館までお電話で。
日程：10月6日、13日、20日、27日、11月3日、10日の毎土曜日（6週連続）
時間：午後2時～4時。
場所：明治史料館講座室
講師：友野博氏（沼津市文化財保護審議会会長）
受講料：無料
テキスト：当館で用意
※古文書辞典をお持ちでない方は幹旋致します。

▶日露戦争凱旋兵士歓迎の幟

◎麻布学園が来館

5月19日、例年のように江原素六記念祭に参列するため東京の麻布学園の中学一年生三百名が来沼し、当館にも立ち寄りました。講座室で長嶋館長の説明を聞いた後、展示室を観覧しました。生憎の雨天のため記念祭は金岡会館で行われました。



◎新館長の就任

5月1日付の人事異動により館長（兼社会教育課長）内村寿男は福祉老人課長に転出し、後任には長嶋民夫（前第五小学校長）が就任致しました。今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

沼津市明治史料館通信　第22号
編集　発行　沼津市明治史料館
〒410 沼津市西熊堂372―1
☎〇五五九(23)三三三五